

第2回



近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺地区 まちづくりワークショップ

概要

- 日 時:令和4年10月22日(土) 14時～16時
- 会 場:トナリエ3階デッキ(近鉄大和高田駅前)
- 参加者:11名
- オブザーバー:近畿大学教授 久 隆浩

■ワークショップのテーマ

地域資源の掘り起こし・活用

(まち歩き4つの視点)

主要駅周辺の利活用、大街区の活用、

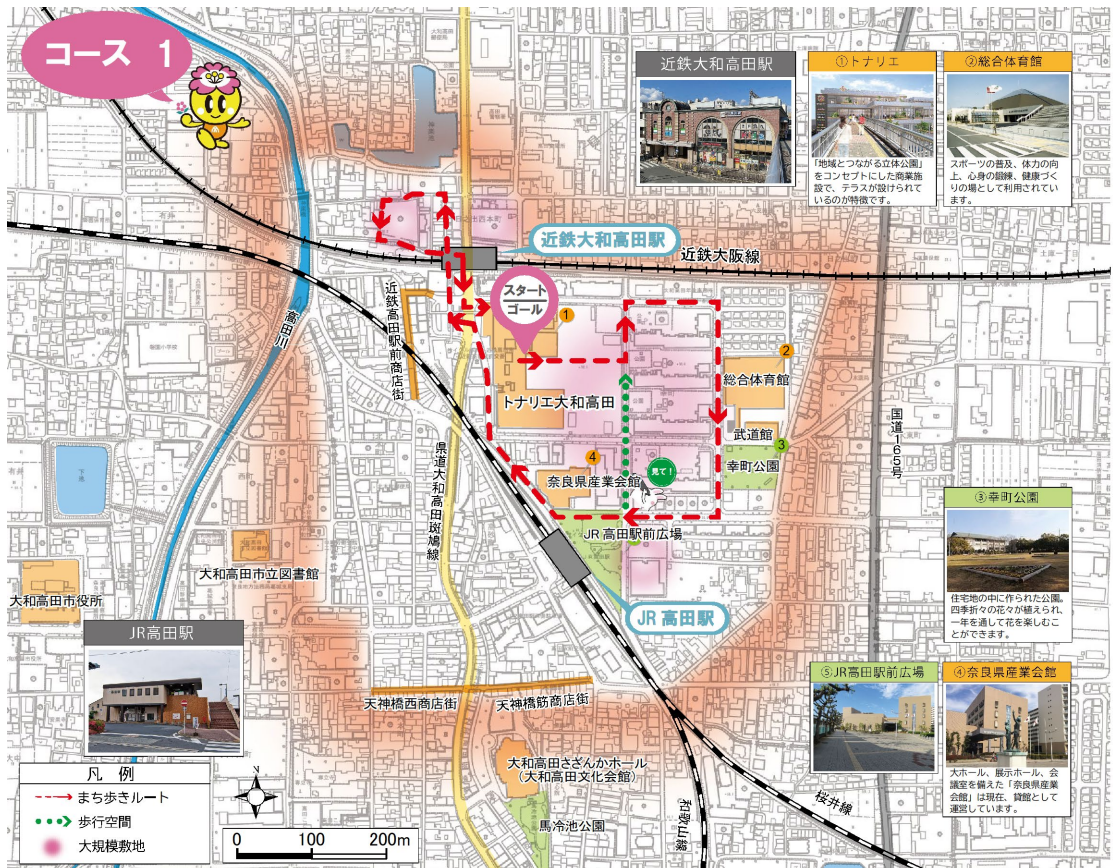
有効に活用されていない施設の活用、回遊性



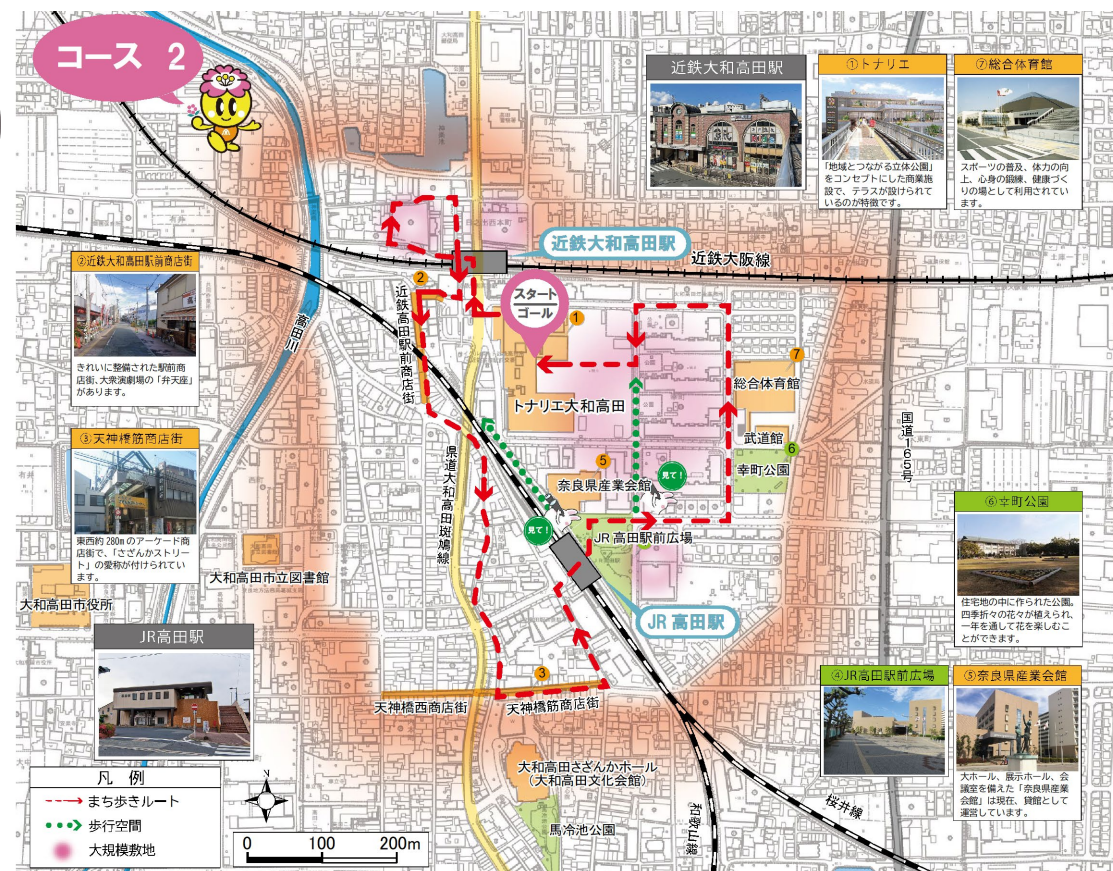
会議風景



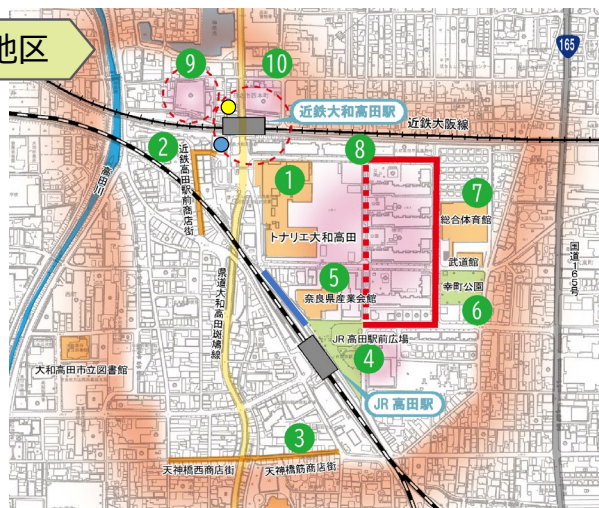
ショート
コース



ロング
コース



対象地区



近鉄大和高田駅、JR高田駅周辺のまち歩きの結果から出た主な意見は以下のとおりです。

主な意見

①トナリエ

- ・景色がきれい。(テラスからの眺望がよい)
- ・テラスで週末にマルシェなどとして欲しい。
- ・(意見なし)

②近鉄大和高田駅前商店街

- ・商店街に駐輪できるようになったので、違法駐輪が減った。
- ・飲食店など駅前が賑わえば、違法駐輪が無くなる。

③天神橋商店街

- ・商店街がシャッター街、1階の店舗を貸せばいい。
- ・商店街に新しいお店が増えた。(?)

④JR高田駅前広場

- ・桜がきれい。
- ・昔は夏まつり等イベントが多かった。(D51が走っていた?)
- ・もっと活用したい。(イベントや待っている間の施設等)

・(意見なし)

⑤奈良県産業会館

- ・昔はこの辺にコンビニがあって便利だった。
- ・道がガタガタで危ない。

・(意見なし)

⑥幸町公園

- ・広くて整備されているが活気がない。
- ・やっつけっぽいルールが多い。
- ・人通りが少ないので子供だけでは心配。
- ・駐車スペースがあればマルシェなどやれば良い。
- ・昔はゲートボールや野球等をやっていた。

・ベンチが少ない。

⑦総合体育館

- ・プラスチックゴミステーションは便利。(24時間使える)
- ・40年前は建物がかっこよく、子供の体操教室等やっていた。
- ・駐車スペースが少なく、ゴミのマナーが悪い。
- ・路上駐車が多い。(利用者の送迎や近隣住人の友達?)

・(記述なし)

⑧街路

- ・歩きやすい。
- ・緑が減った。(整備前は多かった)
- ・事故が多い。
- ・暗い

- ・木が少ない。(サザンカ)
- ・歩道のタイルの色彩など統一感が失われた。アスファルト舗装もいずれタイルに変えて欲しい。
- ・木陰がある歩きやすい道を。

⑨市営駐車場

- ・駐車場が広い。
- ・月極をやめて時間貸しにして欲しい。
- ・市営駐車場があることを知らなかった。

⑩近鉄大和高田駅周辺

- ・駐輪マナーが悪い、自転車の走行が危険。
- ・タバコのマナーが悪い。
- ・駅北側はあまり行かない。
- ・高齢者が利用しやすいタクシー乗り場がない。

〇全体

- ・催し案内が不便(総合体育館 他)
- ・行事に参加したいが雰囲気分からない(総合体育館 他)
- ・賑わいのために行きたくなる店と歩きやすい道を。
- ・フリーWifiが必要。(スマホのガイドが便利)
- ・銭湯を活用できないか。(3件あるので見どころマップを作るなど)



- 公共施設(⑤⑥⑦)の利用が少ない(利用目的がない、何をやっているか分からない)。
- 駅前商店街の空き店舗が活用されていない(ただし、一部、民間の駐輪場として活用)。
- 個性的な劇場、商店、銭湯、歴史的施設の顕彰碑などの地域資源が点在する。

オブザーバーからのコメント

今日、少し歩いただけでも、それぞれの時代の大和高田の名残が見られて面白かったと思います。大和高田らしさを残し、うまくそれを使いながら、コースを作って繋げていくような、そんな仕掛けができればいいですね。

幸町公園は、イベントをするにはとてもコンパクトでいい空間だと思います。イベントをするスペースは色々なところにあることを確認したので、複数の団体が同時多発的なイベントを開催して、参加者がまちを巡り、賑わいのきっかけを作ることができるのではないかと思います。

ワークショップ参加者へのアンケートの結果

ワークショップ終了後に、参加者に対して行ったアンケートにおける、結果の一部を紹介します。

(アンケート回答者11名、うち有効回答10)

おおよそ1時間のまち歩きでしたが、まち歩きの前後での対象エリアの印象の差を問う質問(①)には、半数が「印象が良くなった」と回答しました。

また、印象の変化に繋がる具体的な感想を問う質問(②)には、全体の8割が「ここが活用されたら、是非遊びに行きたいと感じた」と回答しました。

参加者の印象の違いに分けて感想を整理(③、④)すると、印象の違いに関わらず、どちらも「ここが活用されたら、是非遊びに行きたいと感じた」と回答しました。

また、印象が良くなった方たちの中に「魅力的な場所があり、このエリアで自ら活用してみたいと感じた」との回答がみられました。

参加者がまち歩き、このエリアに地域資源があることを再確認した(主な意見、参照)ことで、それらが活用されることへの期待とともに、一部ではありますが、自らがまちに主体的に関わろうとする可能性を感じる結果を得ました。

